

桶川市デジタル田園都市構想総合戦略（改定案）に関する意見等の募集結果

第1章 総合戦略の全体概要

※第1章 総合戦略の全体概要に関する意見はありませんでした。

第2章 戦略の前提

※第2章 戦略の前提に関する意見はありませんでした。

第3章 戦略の展開

※第3章 戦略の展開に関する意見はありませんでした。

第4章 戦略の推進

No.	項目等	意見等の概要（個人情報保護等のため必要に応じて要旨をまとめています。）	市の考え方
1	2 施策の展開	<p>桶川はベットタウン化していると考えます。それ故からの意見です。</p> <p>④①集客が必要</p> <p>②美しい風情が感じられ、市外、内の人々が憩える所を作る 再度又来たいと思わせる</p> <p>③駅前を今のまま生かす。昭和レトロを味わってほしい。</p> <p>④元南小跡地を活用する 春は桜、秋は銀杏の下で憩える、集える様に。</p> <p>⑤神社を作る（小さめで良い） 全国のなるべく遠くの繁栄している神社からお札を分けてもらい設置する。青森県の八戸市の蕪無神社は全国から集まる様です。 例（蕪（カブ）から持株が上がる、転場での株があがる、人の付き合い方が良くなる）（遠方に行かなくても東京から直ぐの所に遊びに行ける）</p> <p>⑥神社から買物も楽しんでもらう為に商店街に誘導できる様に作り、市外、内の人々に買物の楽しみを味わってほしい。</p> <p>⑦別の場所にも公園を特徴あるようにする</p> <p>①バス停を〇〇公園前にする。</p>	<p>本市は、東京都心から 40 k m圏に位置し、比較的、通勤通学の利便性も良いことから、良好な居住環境の形成など、住宅都市としてのまちづくりを推進しています。</p> <p>また、首都圏中央連絡自動車道の I Cや上尾道路など広域幹線道路を生かしたまちづくりとして、企業誘致や観光の拠点となる道の駅「(仮称) おけがわ」の整備に取り組んでいます。</p> <p>地域特性を生かした人口減少の抑止策として、ご意見にございます集客による交流人口の創出や地域資源の活用、駅前の情緒や元南小跡地（現ことぶき広場）の活用などにつきましては、戦略に掲げる取り組みを推進する際の参考とさせていただきますので、ご理解を賜りたく存じます。</p>

桶川市デジタル田園都市構想総合戦略（改定案）に関する意見等の募集結果

No.	項目等	意見等の概要（個人情報保護等のため必要に応じて要旨をまとめています。）	市の考え方
2	(1)基本目標1 〈必要な取組〉	<p>P17「結婚に向けた交流支援（出会い）の充実」はH28年3月作成の桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも記載されていたが、この施策を行政が実施することでどの程度婚姻数が増えたのかを検証しているのか。</p> <p>パートナーを見つけたいと思う人は民間の結婚紹介所やネット上でも探すことは可能であるし実際若年層はそうしている。結婚に対する意識や価値観が多様化している現代において行政が予算を投じてやる必要はない。こうした官製婚活は「生めよ殖やせよ」を彷彿とさせる、時代に逆行した政策だと考える。むしろ、パートナーシップ制度を市として導入し、多様な価値観を認めていく姿勢を見せることで若年層に訴えかけたほうが良いのではないかと。</p>	<p>本総合戦略では、人口減少の抑止策として、若者や子育て世代のライフステージに着目し、ライフサイクルの好循環を促すこととしています。</p> <p>これを踏まえ、基本目標のひとつに「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」を掲げ、結婚や妊娠、出産、子育てに対し、不安を抱くことがない環境づくりを推進することとしています。</p> <p>ご意見にございます「結婚に向けた交流支援（出会い）の充実」につきましては、現在、本市では、埼玉県の結婚支援センター（SAITAMA 出会いサポートセンター）の運営協議会の会員として、桶川出張登録相談会を定期的で開催し、出会いの機会の提供を行っております。</p> <p>令和5年12月末時点におきまして、同センターへの登録会員数18,383人、このうち、桶川市民の方が284人ご登録いただいております、成婚により退会された方が16人となっております。</p> <p>また、パートナーシップ制度につきましては、令和3年2月1日より、桶川市パートナーシップ宣誓制度を開始しておりますので、ご理解を賜りたく存じます。</p>
3	(3)基本目標3 〈必要な取組〉	<p>P23「空き家や空き店舗、空き地の発生抑制と活用」は具体的にどのように取り組むのか。桶川市の空き家バンクには賃貸も売買も全く情報がない。桶川市の空き家率は現状埼玉県平均より低いので今のうちに空き家をこれ以上増やさない施策を積極的に実施したほうが良いのではないかと。</p> <p>戸建てが空き家になる契機に独居高齢者の施設入所や入院、あるいは死亡があると思うが、こうしたタイミングを捉えやすいのは介護支援専門員である。空き家になる可能性について介護支援専門員のアセスメント項目に入れるようにし、ある場合には空き家バンクや相続登記の義務化、相談窓口について必ず本人と家族に説明するようにしてはどうか。介護支援専門員は介護保険のケアプランを作成して運用していくことにのみ関心がいきがちなので、空き家を増やさないために介護支援専門員も協力していく姿勢を持ってもらう取り組みも必要だと考える。</p>	<p>空き家や空き店舗、空き地の発生抑制と活用に関する取り組みといたしましては、良好な居住環境の形成や中心市街地の賑わいの創出を図り、住み替えや店舗の出店などを円滑にし、空き物件の発生抑制につなげることや、宅地建物取引業の団体と連携した空き家バンク制度や空き家に関する無料相談の実施などに取り組んでいます。</p> <p>また、現在、空き家バンクに登録がないことにつきましては、市場の不動産仲介において、ある程度、物件が流通しているものと推察しております。</p> <p>後段のご提案につきましては、戦略に掲げる取り組みを推進する際の参考とさせていただきますので、ご理解を賜りたく存じます。</p>

第5章 進行管理

※第5章 進行管理に関する意見はありませんでした。